

一般

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	終末処理場施設維持管理事業			事業コード	0843
担当課等	所属名	上下水道局 下水道施設管理課	担当係名		
	課長名	上下水道局 下水道施設管理課	担当者名	滝沢誠透	電話番号

1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	快適な都市機能	コード 7	施策	健全な水環境・良好な水循環の創出	コード 6
	基本事業	汚水処理の充実	コード 1	関連予算 費目名	下水道事業会計 1款 1項30目 施設維持管理事業 (処理場施設)(300-03)	
	特記事項					
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒ (開始年度 昭和40年度~)		
事務事業の概要	中川原終末処理場施設の機能を適正に保持して、放流水質を確保し、公共用水域の保全、生活環境の向上を図る。					
根拠法令等	下水道法第3条					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
盛岡市公共下水道事業計画により、昭和28年に下水道事業を開始し、本処理場を昭和40年から供用開始したことによる。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
特になし。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
平成25年度に単独公共下水道の中川原処理区を北上川上流流域関連公共下水道に切替える予定である。						

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	<input type="radio"/> 中川原終末処理場 ・施設、設備数 ・流入下水水量 ・中川原処理区利用人口	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 施設設備数(合流棟、分流棟、監視棟、汚水処理設備、汚泥処理設備) B. 流入下水水量 C. 利用人口	単位 単位 単位	ヶ所 m3 人
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) <input type="radio"/> 施設設備維持管理基準に従い、適切な整備を行ない機能の維持に努め、効率的で環境に配慮した施設の維持管理を行った。 ・整備すべき対象設備等の選定 ・排水の水質検査実施 ・日常点検の実施 23年度計画(23年度に計画している主な活動) 施設設備維持管理基準に従い、適切な整備を行い機能の維持に努め、効率的で環境に配慮した施設の維持管理を行なう。	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 修理委託及び改修等実施件数 B. 水質測定回数 C. 日常点検頻度	単位 単位 単位	件 回 回
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	<input type="radio"/> 処理場は流入下水を排水基準に適合するよう処理し、河川等の公共水域の水質保全、生活環境の向上に努める。 ・処理場運転が年間を通して停止させることなく安全・安定した施設管理を行う。 ・処理場からの放流水を「下水道法、水質汚濁防止法」に規定する排出基準に適合するよう施設管理を行う。 (水質基準) ・pH排出基準 5.8以上8.6以下 ・BOD排出基準 60以下 ・SS排出基準 120以下 ・大腸菌排出基準 3000以下	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 処理場稼働達成率(達成日数÷年間日数)×100 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】 B. 処理水排出基準達成率(水質基準達成回数÷24回(月1回検査実施))×100 【指標の性格:○上げる ○下げる ●維持する】 C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位 単位 単位	% % 単位
⑦結果 (上位基本事業の意図、上位の基本事業にどのように貢献するか)	衛生的な水環境が確保される		⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	汚水処理人口普及率(処理区域内人口/行政区域内人口)(単位:%)	

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	施設設備数(合流棟, 分流棟, 監視棟, 汚水処理設備, 汚泥処理設備)	ヶ所	5	5	5	5	5	5	25年度 5
対象 指標B	流入下水量	m3	9,165,000	9,181,970	10,000,000	8,353,570	9,000,000	9,000,000	25年度 9,000,000
対象 指標C	利用人口	人	40,836	40,836	40,836	40,638	40,638	40,638	25年度 40,638
活動 指標A	修理,委託及び改修等実施件数	件	52	26	40	38	40	40	25年度 40
活動 指標B	水質測定回数	回	48	48	48	48	48	48	25年度 48
活動 指標C	日常点検頻度	回	1,137	1,147	600	626	600	600	25年度 600
成果 指標A	処理場稼働達成率(達成日数÷年間日数)×100	%	100	100	100	100	100	100	25年度 100
成果 指標B	処理水排出基準達成率(水質基準達成回数÷24回(月1回検査実施))×100	%	100	100	100	100	100	100	25年度 100
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	124,592	118,794	136,922	122,939	122,397	107,397	*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	*****
	⑧その他	千円	124,592	118,794	136,922	122,939	122,397	107,397	*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	124,592	118,794	136,922	122,939	122,397	107,397	*****
	延べ業務時間数	時間	33,330	33,643	25,250	25,470	25,552	25,552	*****
	職員人件費(B)(臨時職員賃金は,事務費に含む)	千円	133,320	134,572	101,000	101,880	102,208	102,208	*****
	トータルコスト(A)+(B)	千円	257,912	253,366	237,922	224,819	224,605	209,605	*****

3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 本事業の実施により処理場施設を適正に管理運営することが可能となり、排水水質基準が守られ、衛生的で安全な生活環境及び公共用水域の水質の保全を確保することができる。
	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	「妥当」とする理由: <input checked="" type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input type="radio"/> その他 理由:
	③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	「妥当」とする理由: <input checked="" type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input type="radio"/> その他 理由:
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	「妥当」とする理由: <input checked="" type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> その他 理由:
有効性評価	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 向上余地がない	その内容: 定期的な点検整備や計画的な機器の更新を実施することにより、設備機器の耐用年数を長くしたり、不具合の発生を未然に防止することができる。
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 汚水、雨水を処理する施設を維持管理する事業であり、休止または廃止した場合は、衛生的な水環境を確保することが困難となる。
	⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 類似事業がある <input type="radio"/> 類似事業がない	事業名: 北上川上流流域下水道 ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> できない 理由: 下水道法の規定により、各々の管理者が定められている。
効率性評価	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 削減できない	その内容: 現状では適正な維持管理に努めても、設備機器の経年劣化による不具合の発生は避けられないことから、事業費を削減することは困難であるが、平成25年度の流域下水道への切替えにより削減が可能である。
	⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 削減できない	その内容: 現状では、運転管理方法の改善等により現在の人員配置となっていること、経年劣化による点検修理が増加していることから、これ以上の削減は困難であるが、平成25年度の流域下水道への切替えにより削減が可能である。
公平性評価	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 受益機会は計画に基づき定められた区域内で行われていることから適正である。
	⑪費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	理由: 費用の原資は条例で定められている使用料である。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革 改善 方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること 平成25年度に中川原処理区域を北上川上流流域公共下水道へ編入し、処理場施設を廃止する予定である。 ②改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか？ それをどう克服していきますか？ (関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む) 中川原処理区域(合流区域)の合流改善、北上川上流流域公共下水道都南幹線事業の推進、処理場施設の廃止に伴う県下水環境課との協議、処理場施設の廃止に伴う解体撤去や跡地利用計画、職員の配置等で関連部署との協議。
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. 課長意見

一次 評価	(1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性 : ● 妥当 ○ 見直し余地あり ② 有効性 : ○ 妥当 ● 見直し余地あり ③ 効率性 : ● 妥当 ○ 見直し余地あり ④ 公平性 : ● 妥当 ○ 見直し余地あり	(2)全体総括(振り返り, 反省点) 本事業では中川原処理区の下水処理に加え、ポンプ場等の場外施設の遠方監視及び遠方操作を行っているが、施設・設備は老朽化が著しく、流域下水道への切替となる平成25年度までの間、施設の機能保持に努めなければならない。また、流域下水道へ切替後においてもポンプ場等の場外施設の遠方監視、遠方操作は継続することから、部品調達が困難となり更新が必要となっていた制御機器の改修に着手した。
今後の 方向性 と 改革 改善 案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案) <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 </div> <div style="margin-right: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 </div> </div> <p>時期:平成25年度から</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>方向付けの理由と改革改善の内容</p> <p>流域関連公共下水道として北上川上流流域下水道区域へ編入する。</p>	